

# 父はつらいよ

2013/6/16

シリーズ～神の国～

父の日

# ルカ福音書15章11～32節

また、イエスは言われた。「ある人に息子が二人いた。弟の方が父親に、『お父さん、わたしが頂くことになっている財産の分け前をください』と言った。それで、父親は財産を二人に分けてやった。何日もたたないうちに、下の息子は全部を金に換えて、遠い国に旅立ち、そこで放蕩の限りを尽くして、財産を無駄使いしてしまった。何もかも使い果たしたとき、その地方にひどい飢饉が起こって、彼は食べるにも困り始めた。それで、その地方に住むある人のところに身を寄せたところ、その人は彼を畑にやって豚の世話をさせた。彼は豚の食べるいなご豆を食べてでも腹を満たしたかったが、食べ物をくれる人はだれもいなかった。そこで、彼は我に返って言った。『父のところでは、あんなに大勢の雇い人に、有り余るほどパンがあるのに、わたしはここで飢え死にしそうだ。ここをたち、父のところに行っておう。

「お父さん、わたしは天に対しても、またお父さんに対しても罪を犯しました。もう息子と呼ばれる資格はありません。雇い人の一人にしてください」と。』そして、彼はそこをたち、父親のもとに行った。ところが、まだ遠く離れていたのに、父親は息子を見つけて、憐れに思い、走り寄って首を抱き、接吻した。息子は言った。『お父さん、わたしは天に対しても、またお父さんに対しても罪を犯しました。もう息子と呼ばれる資格はありません。』しかし、父親は僕たちに言った。『急いでいちばん良い服を持って来て、この子に着せ、手に指輪をはめてやり、足に履物を履かせなさい。それから、肥えた子牛を連れて来て屠りなさい。食べて祝おう。この息子は、死んでいたのに生き返り、いなくなっていたのに見つかったからだ。』そして、祝宴を始めた。

ところで、兄の方は畑にいたが、家の近くに来ると、音楽や踊りのざわめきが聞こえてきた。そこで、僕の一人を呼んで、これはいったい何事かと尋ねた。僕は言った。『弟さんが帰って来られました。無事な姿で迎えたというので、お父上が肥えた子牛を屠られたのです。』兄は怒って家に入ろうとはせず、父親が出て来てなだめた。しかし、兄は父親に言った。『このとおり、わたしは何年もお父さんに仕えています。言いつけに背いたことは一度もありません。それなのに、わたしが友達と宴会をするために、子山羊一匹すらくれなかったではありませんか。ところが、あなたのあの息子が、娼婦どもと一緒にあなたの身上を食いつぶして帰って来ると、肥えた子牛を屠っておやりになる。』すると、父親は言った。『子よ、お前はいつもわたしと一緒にいる。わたしのものは全部お前のものだ。だが、お前のあの弟は死んでいたのに生き返った。いなくなっていたのに見つかったのだ。祝宴を開いて楽しみ喜ぶのは当たり前ではないか。』』

# 映画“男はつらいよ”シリーズ

- 主演、**渥美清**氏による大ヒット映画
- 原作・脚本・監督(3,4作除く)は**山田洋次**
- 1969年から95年までに全**48**作(世界最長映画)
- 東京下町育ちの「てきや」  
“**車寅次郎**”が素敵な女性  
(マドンナ)と巡り会って恋に  
落ち,失恋するまでを描いた  
実に「何でもない」作品



# “男はつらいよ”の出演者たち

## 主要キャラクター



諏訪 博  
〈前田 吟〉

夫婦



さくら  
〈倍賞千恵子〉

異母兄妹



車 寅次郎  
〈瀧美 清〉

叔父  
甥



おいちゃん  
〈下條辰巳〉

〈第1作～8作：森川 信〉  
〈第9作～13作：松村達雄〉

夫婦



おばちゃん  
〈三崎千恵子〉

息子



満男

〈吉岡秀隆〉

〈第2作～26作：中村はやと〉

## ご近所さんたち



タコ社長  
〈太宰久雄〉



御前様  
〈笠 智衆〉



源公  
〈佐藤 竜次郎〉



# “男はつらいよ”と「放蕩息子」

- “寅さん”＝「弟」
  - いつも「家出中」
  - 自由奔放。簡単に失敗するが、素直なところもあり、“愛される”キャラクターである
  - 「帰るところ」があるからこそ彼は旅に出られる。
- “寅屋”＝「家」「父親」
  - 寅さんの帰りを待っている
  - 寅さんがいつ帰ってきても暖かく迎え入れる。
    - 帰ってきたら一家で食卓を囲む。
- “葛飾柴又の人たち”＝「兄」
  - 貧しいながらもまじめに生きている
  - 寅さんの生き方を批判するが、実はうらやましい



# “寅さん”と「父親」のつらさ

- 寅さんのつらさ

- すぐに女性を好きになるが、その女性の本当に幸せを考えて身をひくつらさ
- 故郷を思いながらも居続けられないつらさ

- 放蕩息子の「父親」のつらさ

- 大切に育てた次男が家を出て行ってしまつらさ
- 長男のことを気遣いながらも次男を帰りを待つつらさ
- 次男の帰りを喜ぶと、長男が怒ってしまうつらさ

# “寅さん”と「父親」のつらさ

- 寅さんのつらさ

- すぐに女性を好きになるが、その女性の本当に幸せを考えて身をひくつらさ
- 故郷を思いながらも居続けられないつらさ

- 放蕩息子の「父親」のつらさ

- 大切に育てた次男が家を出て行ってしまつらさ
- 長男のことを気遣いながらも次男を帰りを待つつらさ
- 次男の帰りを喜ぶと、長男が怒ってしまうつらさ



「義理と人情の板挟み」

# 天の父のつらさ

- 大切に造った人間たちが簡単に自分のもとを去っていくつらさ
  - 必ず上手くいかなくなることを知りながら
- いつ帰ってくるかもしれないわが子を待つつらさ
  - 無理矢理引き戻すわけにもいかない
- 「正義」と「愛」の両方をまっとうするつらさ
  - 「人は皆、罪を犯して神の栄光を受けられなくなっています」ローマ3:23 「神は愛です」ヨハネ4:16
- 人間を赦すために、「独り子」を裁くつらさ
  - 「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。」ヨハネ福音書 3:16